

No.	感染症(PT)	出典	概要
1	A型肝炎	Epidemiol Infect 2006; 134: 87-93	1998年から1999年の韓国の血友病患者におけるHAV感染と血液凝固因子との因果関係を調べるため、比較対照試験と分子学的HAV検出を行った。疫学的調査およびHAV RNA配列検査から、凝固因子VIIIの1ロットがHAV感染に関与していたことが明らかになった。
2	B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1256-1258	ヨーロッパでのB型肝炎発生率は北西部が低く(1%以下)、南部が高い(5-15%)。北西部では抗HBcスクリーニングが導入され、南部ではHBV-NATが導入される傾向がある。B型肝炎ウイルス陽性となった供血者と血液の管理に関して、ヨーロッパではHBV DNA、HBc抗体陽性でHBs抗体レベルが100IU/L以上の場合は供血を続けることができるというリエントリー・アルゴリズムが検討されている。
3	B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®Hbcore検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® Hbcoreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行って、検査結果を比較した。
4	B型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 199 第54回日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	日本の献血者におけるHBV NAT陽性者について解析したところ、20歳代ではHBV感染初期、50歳代、60歳代では感染晩期の陽性例が多かった。陽性数の高い地域は千葉県から愛知県までの太平洋側と大阪府であった。HBV Genotype Aは101例(女性1例)検出され、全国に広がる傾向が見られた。
5	B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 197 第54回日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	輸血用血液製剤のHBV、HCV、HIVについて、2000年2月から2004年1月までの4年間の遡及調査を行った。調査は、主に複数回献血者において感染症マーカーが陽転した場合に前回の血液サンプルを個別NATで精査するもので、HBVについては50ブールNAT、HBsAg、HBcAbのいずれかの陽転例約16000人について前回の保管検体を調べた。副作用報告による感染例を合せると、日本では輸血によるHBV感染が1年に約19例、HCV感染は4年に1例、HIV感染は2年に1例起こるものと推定された。
6	B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 198 第54回日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	医療機関において輸血後感染症の全数調査を実施したところ、輸血後陽転例はHBVで9例(0.9%)存在し、1例のみが輸血後B型肝炎と診断され、他の8例は感染晩期のHBVキャリアで再活性化が起こったと考えられた。HCVとHIVでは輸血後陽転例はみられなかった。
7	B型肝炎C型肝炎	日本輸血学会雑誌 52(2): 234 第54回日本輸血学会総会 2006年6月 9-11日	2005年に全国の医療機関から日本赤十字社へ報告された輸血感染症(疑い症例を含む)の現況とその傾向についての報告である。2005年輸血感染症症例(疑い症例を含む)報告数は12月22日現在260例で、内訳は、HBV:127、HCV:71、HEV:2、HIV:2、CMV:3、ヒトパルボウイルスB19:3、細菌:52であった。この内、輸血との因果関係が高いと評価した症例は、HBV:10例、HCV:1例、HEV:1例、ヒトパルボウイルスB19:3例であった。
8	C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 469-475	米国の5つの血液センターで1999年から2001年12月に供血した2,579,290例についてHCV抗体、NATデータ、ALT値および人口統計学的特徴について分析した。ALT値はRNA陽性の初回ドナーで有意に高い傾向があった。ウイルス血症寛解は白人の方がアジア系や黒人より有意に高かった。
9	E型肝炎	J Clin Virol 2006; 36: 100-102	2004年6月にハンガリーで検出されたヒトE型肝炎感染の最初の症例報告である。60才男性で、国外への旅行歴はなく、発病の1か月前に自家屠殺したブタの肉から作ったポークソーセージを食べていた。このE型肝炎ウイルスHungary1は遺伝子型3に属し、Hepevirus属HEVの新しいヒト変異型の可能性がある。
10	E型肝炎	J Gen Virol 2006; 87: 949-954	日本固有のE型肝炎ウイルスの分子学的追跡を行った。日本で回収された遺伝子型3HEV24株および遺伝子型4HEV24株は、821nt RNAポリメラーゼ遺伝子フラグメントから成る系統樹で、外国株とは明らかに異なるクラスターを示した。ヌクレオチド置換速度から、日本固有HEVの先祖は、英国から日本へヨークシャ種のブタが輸入された1900年頃導入したと考えられた。遺伝子型3の進化は1920年代から始まり、遺伝子型4は1980年代から急速に広まった。日本におけるHEVの土着化と蔓延は豚肉摂食の大衆化と関連する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
11	E型肝炎	J Infect Dis 2006; 193: 1643-1649	IV型HEVについてヒトとブタ宿主との関係を調べるため、各々のウイルス保有率およびウイルスの遺伝的性質を調べ、また養豚場と感染のリスクとの関係を評価した。中国東部の2つの養豚地区では、ブタ9.6%、健康人0.3%で大便中からHEVが検出され、IV型サブタイプ2つが両者に共通していた。養豚に従事するヒトは他の職業のヒトより感染リスクが74%高く、養豚場の下流の住民は上流の住民より感染リスクが29%高かった。IV型HEVはブタからヒトへ自由に感染すると考えられる。
12	E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
13	E型肝炎	日本輸血学会雑誌 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験研究的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。
14	E型肝炎	臨床病理 2006; 54: 408-412	千葉大学附属病院消化器内科において、原因不明とされた非A非B非C型急性肝炎126例中7例でE型急性肝炎が含まれていることが確認された。この中の1例は、発症約2カ月半前に飲食店で豚のレバ刺しを食べていた。かつては輸入感染症と考えられていたE型肝炎が国内でも発症していることが明らかとなった。
15	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
16	HIV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	英国におけるHIVの四半期最新情報(2006年6月末までのデータ)。1982年にサーベイランスが始まって以来2006年6月末までにHIV診断数は80556例報告された。感染経路別、性別、診断年別のデータを示している。輸血または血液因子製剤による感染は2005年度は男性7例、女性9例、2006年度は6月末までに男性3例、女性2例である。
17	HTLV	CDR Weekly 2006; 16(30) HIV/STIs	2005年に英EnglandおよびWalesにおける新規HTLV診断は73例で、男性22例、女性51例であった。うち、63例がHTLV-1型、4例がHTLV-2型、1例が両方に感染していた。46例について詳細情報を収集した医師報告を受け取り、予想される感染経路として、3例(9%)が輸血であった。
18	HTLV	International Conference on Emerging Infectious Diseases 2006; Mar 19-22; Atlanta, Georgia. Abstracts #50	狩猟、屠殺、飼育を通して非ヒト霊長類(NHP)の血液と接触がある中央アフリカ人930名の血漿検体を用いて、HTLV多様性を調べた。ウエスタンプロット法で陽性の13例から、PCRによりプロウイルスを増幅し、系統発生的分析を行った。その結果、HTLV-3とHTLV-4と名づけた新しいウイルスの感染例(2例)が明らかになった。HTLV-3は、今までヒトでは見られなかったSTLV-3に属する。また、11例でマンドリル由来のものなど、多様なHTLV-1感染が見られた。
19	HTLV	J Virol 2006; 80: 7427-7438	HTLV3型は最近同定された新規のウイルスである。HTLV-3感染者由来の非培養末梢血リンパ球を用いたPCR法に基づくゲノム解析により、初めて完全なHTLV-3配列を明らかにした。HTLV-3(2026N)ゲノムは8917bpで、HTLV-1とHTLV-2とは共に約62%、STLV-3とは87-92%の配列同一性を共有した。系統発生的分析ではSTLV-3に属し、霊長類起源であることが示唆された。
20	インフルエンザ	ProMED-mail20060624.1757	中国で、2006年6月11日～22日に、Guangzhou大学の130名を超える学生および職員がインフルエンザ(インフルエンザ型疾患)に感染した。同様の症例は同市の他の学校においても発生している。主な症状は発熱で、重症にはならない。
21	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者が2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
22	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060623.1743	WHOは、H5N1トリインフルエンザウイルスの限定的なヒトヒト伝播が5月にインドネシアの家族で起こったと発表した。しかし、疾病の拡大に大きな変化を及ぼすものではないとしている。ウイルスの変異は見られたが、ヒトの間での伝播を容易にするものではなかった。
23	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060629.1800	中国衛生省は、2003年11月にH5N1トリインフルエンザで死亡した男性症例に関する報告(N Engl J Med 2006; 354: 2731-2732)について独自の調査を実施している。この報告は8名の中国の研究者によるもので、当局は同誌に発表されるまでこの症例を知らなかったと言っている。
24	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。
25	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者(Shenzhenの31オトラック運転手)が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
26	トリインフルエンザ	ProMED-mail20060812.2261	中国衛生当局は連絡の問題により、H5N1トリインフルエンザのヒトにおける初めての症例の報告に2.5年の遅延があったことを2006年8月10日に発表した。Beijingの24才の軍人が2003年後期にトリインフルエンザに感染していた。中国はこの症例を中国の研究者らがNew England Journal of Medicineにおいてレターを発表した後に初めて確認した。
27	トリインフルエンザ	WHO http://www.who.int/csr/don/2006_02_21b/en/index.html	トリインフルエンザの流行がアジア、アフリカ、ヨーロッパの国々に広がっている。2006年2月以降に初めてトリのH5N1感染を報告した国は、イラク、ナイジェリア、アゼルバイジャン、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、スロベニア、イラン、オーストリア、ドイツ、エジプト、インド、フランスの13カ国にのぼる。
28	トリインフルエンザ	Arch Virol 2006 Published online Feb 26, 2006	2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニプタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全て死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。
29	トリインフルエンザ	Avian Diseases 2005; 49: 436-441	2004年12月に発生した山口県の養鶏場のニワトリの高病原性トリインフルエンザ感染について、疫学的、病理学的、免疫組織化学的研究を行った。処分前の致死率は34640羽のうち43.3%であった。死んだトリは臨床症状は示さなかった。組織学的には肝細胞、脾臓の夾組織および濾胞、ならびに脳幹、大脳、小脳のグリア小結節などで壊死が見られた。免疫組織化学的にはインフルエンザウイルス抗原は肝臓、脾臓、心臓等で見られたが、肺や気管では稀であった。ウイルスの呼吸器からの排泄は消化管からの排泄ほど優位ではないことが示された。
30	トリインフルエンザ	CDC 2006年6月30日	種差を超えてヒトに感染するトリインフルエンザのうち、H5N1は重症例や死亡例を最も多く発生させている。アジアや、ヨーロッパ、近東、アフリカの一部で発生している家禽や野鳥におけるH5N1流行に関連して、このウイルスに感染したヒトの半数以上が死亡した。H5N1のヒトヒト感染は報告はあるが、限定されており、非効率的で、持続していない。しかしながら、H5N1ウイルスが、ヒトからヒトへ簡単に拡がるように変化しうることを科学者らは懸念している。H5N1ウイルスに対するワクチンは現在開発中である。
31	トリインフルエンザ	ECDC Technical Report 2006年6月1日	ヨーロッパで発生している高病原性トリインフルエンザウイルス、特にA型H5N1による公衆衛生学的リスクについて論じている。ヒトの健康へのリスクとしては、トリウイルスによる直接感染、ならびに新しいA型インフルエンザ株の発生がある。感染予防のためには家禽および野鳥の調査、獣医と医療との連携、適切な情報の提供などが必要である。
32	トリインフルエンザ	Emerg Infect Dis 2005; 11: 1515-1521	高病原性A型トリインフルエンザ(H5N1)のアウトブレイクはアジア9カ国の家禽に広がり、2004年1月から2005年4月までにベトナム等で52名以上が死亡した。トリとヒトから分離したH5N1の遺伝子解析を行ったところ、地理的分布が重ならない2つの異なったクレードを示した。全てのウイルス遺伝子はトリインフルエンザ起源であり、ヒトインフルエンザウイルスとの再配列はなかった。調べられたヒトH5N1単離体は全て単一のクレードに属し、アダマンテイン薬には抵抗性があるが、ノイラミニダーゼ阻害薬には感受性があった。

No.	感染症(PT)	出典	概要
33	トリインフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
34	トリインフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 1823-1833	中国Qinghai湖で2005年5月から7月に高病原性H5N1トリインフルエンザウイルスのアウトブレイクにより、何千もの野生の渡り水鳥が死亡した。この時に収集されたガチョウから単離したH5N1インフルエンザウイルス(Bh H5N1ウイルス)を分析した。遺伝子分析の結果、Bh H5N1ウイルスは再配列ウイルスで、PB2遺伝子の627位のアミノ酸残基(リジン)は、ヒトH5N1ウイルス(A/HK/483/97)と同じであり、GenBankにあるH5N1トリインフルエンザウイルスとは異なっていた。
35	トリインフルエンザ	N Eng J Med 2005; 353: 1374-1385	2005年5月10日から12日にハノイで開かれたヒトインフルエンザA/H5に対する症例管理と研究に関するWHO会議で一部発表されたものを含む、ヒトにおけるトリインフルエンザの特徴、予防、管理をまとめた総説である。発生率、伝播、臨床的特徴、病原論、症例検出および管理、予防の項目別に述べている。
36	トリインフルエンザ	Nature 2006; 440: 741-742	トリインフルエンザH5N1ウイルス感染による飼育ネコの死亡報告がアジアとヨーロッパで増加している。ネコはウイルスの疫学に考えられていた以上に大きな役割を果たしているかもしれない。ネコが感染し、高病原性ウイルスを家禽やヒトや他の種に拡げる危険性を最小限にするために、国や関係機関は新たな注意を払う必要がある。
37	BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を発表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。
38	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。
39	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月8日	2006年6月15日にManitobaで安楽死させた病牛は、ウエスタンブロット法と免疫組織化学法により7月3日にBSEと確定された。カナダにおける6頭目のBSE牛であるが、過去の5例とは異なるBSE株であり、ヨーロッパやアメリカで報告されている少数株である。CFIAは直ちにOIE BSEガイドラインに基づいた疫学的調査を開始した。所有者の記録によると、このウシは16か17歳であり、1997年以前に肉・骨粉を含んだ餌を食べた可能性があるが、供給源は不明である。
40	BSE	OIE http://www.oie.int/Messages/060309SUE.htm	スウェーデンでBSEが初めて報告された。Vastmanland郡の1994年3月生まれの食用交雑種雌牛で、乳熱後に後ろ足の問題で処分された。迅速検査で陽性後すぐに、同じ群れのウシは制限下に置かれた。診断は国立獣医学研究所と英国のOIE Reference研究所で行われた。危険動物の同定と餌に関する調査はEU法に準じて行われる。
41	BSE	ProMED20060429-0030	2006年2月にクロアチアから、4月にエストニアから、各々、国内初となるBSE疑い例が発表されたが、OIEは組織病理学的診断の結果、BSEは確認されなかったことを報告した。
42	BSE	ProMED-mail 20060601.1525 ProMED-mail 20060607.1588	2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランスで見られるBSE異型株と同一であることをフランスの研究者が明らかにしたことを受け、米国USDAはこれら2頭のBSEはヨーロッパの少数例に見られる稀な株であることを認めた。USDAはそれまで詳細を明らかにすることを拒否してきた。USDAは、このことにより米国でこれまで実施されているサーベイランス、疾病対策、公衆衛生対策が変更されることはないことを述べている。
43	BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があるとして決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。

Nb.	感染症(PT)	出典	概要
44	BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
45	BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。
46	BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency (CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。
47	BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency (CFIA)は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結論を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
48	BSE	Rapid City Journal 2006年8月25日	米国で見つかったBSE陽性ウシ2例は、ヨーロッパで見られる稀なBSE株由来のものであった。ロンドンの国際学会でフランスとイタリアの研究者は、検出されにくく、主に高齢の家畜に影響を与える2種類の稀なBSE株を報告した。フランスの研究者は、2005年にTexasで、また2006年にAlabamaで発見されたBSE陽性ウシは、フランス、スウェーデン、ポーランドで見られる少数のBSE異型株と同一であることを明らかにした。
49	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 000: 1-3	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。
50	クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 68-69	米国で供血後に古典的CJDを発症した個人を特定し、受血者の追跡調査を行った。2006年2月までに、古典的CJDで死亡した供血者31名が試験に登録され、384名の受血者が特定された。追跡を行ったところ、古典的CJDが輸血を介して受血者に伝播したという証拠は示されなかった。本研究は、1995年に米国の大規模血液供給システムと疾病対策予防センター(CDC)により開始され、継続中である。
51	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
52	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm ² あたり0.2 μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
53	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2006; 342: 293-299	PrP ^{Sc} 遺伝子のコドン129での多型とBSEまたはvCJDプリオンに対する感受性との関係を調べるため、ヒト化ノックインマウスにプリオン蛋白を腹膜内接種し、脾臓濾胞樹状細胞への蓄積を調べた。ヒト化ノックインマウスはBSEプリオンにはほとんど又は全く感受性を示さなかった。驚いたことに、コドン129Met/Metを持つヒト化ノックインマウスだけでなく、コドン129Met/Valを持つものもvCJDプリオンに感染した。コドン129Val/Valを持つヒト化ノックインマウスは感受性がなかった。
54	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood 2006; 107: 3907-3911	PrP ^{Sc} は全身の多数の組織に存在し、血小板に大量に存在する。静止血小板ではα顆粒膜上に存在することが知られているが、その生理学的機能は不明である。血小板中のPrP ^{Sc} の局在を調べたところ、血小板が活性化すると、血小板表面上にPrP ^{Sc} が一時的に発現し、続いて、微小胞およびエキソソーム上への放出が起こることが明らかとなった。血小板由来エキソソーム上にPrP ^{Sc} が存在するという事は、血中でのPrP ^{Sc} 輸送および細胞間伝播におけるメカニズムを示唆する。

No.	感染症(PT)	出典	概要
55	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMJ 2006; 332: 1186-1188	1996年から1999年に、手術時に20-29歳であった患者から得られた虫垂および扁桃12674検体のうち、病原体プリオンに陽性染色であった3例(虫垂)について、プリオン蛋白の遺伝子型分析を行った。3検体中2例で分析が可能であり、両者ともプリオン蛋白遺伝子(PRNP)コドン129のValがホモ接合体であった。今まで、vCJD患者は、Met/Valのヘテロである医原性の1例を除いて全て、PRNPのコドン129がMetのホモ接合体であり、Valホモ接合体がvCJDに対し感受性があることが初めて示された。
56	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR Weekly 2006; 16(6)	英国で、献血の20ヶ月後にvCJDを発症したドナーからの血液(赤血球)を輸血された患者が、8年後にvCJDと診断された。これは英国において輸血伝播によると思われるvCJD感染の3症例目である。
57	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell Tissue Res 2006; 324: 497-505	PrPcは主に神経細胞に見られるが、それ以外の分布に関してはほとんど知られていない。足細胞は神経と多くの類似点があるため、ウシの腎臓を用いて、免疫組織化学的方法、R-PCR法およびELISA法により、PrPcの発現を調べた。その結果、PrPcは選択的に足細胞に局在し、特に糸球体外メサンギア細胞に顕著に発現することが明らかとなった。
58	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 325-333	sCJDまたはvCJDで死亡した患者の脳標本中のPrPsc量を、in vitroアッセイで国際共同研究により評価した。Conformation-Dependent Immunoassayがイムノブロット法によるアッセイより感度が高かった。ヒト二倍体細胞に種々の遺伝子型のプリオンを感染させる試みは今までのところ成功していない。
59	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 335-345	大部分のワクチンまたはワクチン製造工程でウシ組織由来物質が使われている。ワクチン製造に使用される最初の組織を、固有のTSEリスクに基づいて選択することがまず重要であり、安全な起源の第一評価として地理的因子を用いるより安全性が高い。組織が適切に集められ、加工され、詳細な記録が保管されることは必須である。
60	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1125-1128	3頭のウシの脳幹から調整したTSE単離体をC57BL/6マウスの脳内に投与した。2つの単離体は高分子量の非グリコシルPrPres(H型単離体)で、1つは典型的なBSE単離体である。大部分のマウスで感染が起こり、H型単離体に感染したマウスの脳にはH型単離体が、BSE単離体に感染したマウスには典型的BSE単離体が存在することがウエスタンブロットにより確認された。H型単離体に感染したマウスの視床には特徴的な空胞化病変がみられた。このことから、BSE単離体だけでなくH型単離体も種のバリアを超えて病気を発現させる。
61	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイピー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。
62	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
63	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl 1): 16-20	vCJDが英国の血友病患者の臨床に与えた影響について述べた。2003年に輸血伝播vCJDによる最初の死亡例が報告され、2004年に輸血伝播vCJDのリスクがある全ての患者に通知することが決定された。2005年4月現在、A型およびB型血友病患者は、遺伝子組換え凝固因子を投与されている。
64	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl 1): 26-28	血友病の管理における新興病原体についての討論。英国ではvCJDが特に大きな脅威であるが、白血球除去により完全に伝播を防ぐことはできない。また遺伝子組換え製剤による治療が、全てのウイルス伝播リスクをなくすわけではないことなどが論じられている。

No.	感染症(PT)	出典	概要
65	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2006; 12(Suppl 1): 8-15	vCJDは食物でBSEに暴露することで発生するとされていたが、輸血や血液製剤によっても伝播することが報告された。今までのヒトでの発症例は全てヒトプリオン遺伝子のコドン129がメチオニンホモ型のヒトであり、感染していても発症しない無症候性キャリアがいるおそれがある。非侵襲性の血液検査の開発が急務である。
66	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 1043-1046	BSEに感受性のあるPRNP遺伝子型ヒツジにBSE物質を経口摂取させると、宿主の体内にプリオンが広く分布した。ARRホモ接合体ヒツジはTSEに耐性があると考えられているため、ヒツジの群れからスクレイパーを根絶し、小反芻動物BSEリスクからヒト食物連鎖を守るために選択されてきた。しかし、ARR/ARRヒツジで同様の実験を行ったところ、経口摂取の数ヶ月後には健康なARR/ARRヒツジの脾臓に有意な量のPrP ^{Sc} が蓄積されることが明らかとなった。
67	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 251-254	脳内接種により、げっ歯類に適合したBSEまたはvCJDに感染させたハムスターとマウスの骨格筋から、病原体プリオンが検出された。陽性の筋肉検体中のPrP ^{TSE} 濃度は、脳検体中濃度の500から1000倍低かった。骨格筋のTSE関与のリスクをさらに評価する必要がある。
68	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11名のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
69	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 874	2004年2月に50歳の日本人男性がCJDサーベイランス委員会に報告された。男性は英国およびフランスに滞在歴があった。2001年6月に発病し、2003年1月には脳脊髄液は14-3-3蛋白質陽性であった。PrP遺伝子解析では変異は見られなかった。2003年12月にはMRIと脳波より、sCJD可能性例と診断された。2004年12月に死亡し、剖検によりvCJDと診断された。日本初のvCJD確定例である。
70	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurol 2006; 5: 393-398	マウスPrP遺伝子の置換によってヒトまたはウシのコドン129遺伝子型(MM、MV、VV)のPrP蛋白を発現するマウスを作製し、BSE又はvCJDを接種し、疾患の臨床的及び病理学的な徴候を評価した。その結果、BSEはウシの系には感染したが、ヒトの系には感染しなかった。vCJDはヒトの3つの系全てに感染したが、各々の遺伝子型で病理学的特徴、感染効率が異なった。MMは感染効率高く、病理学的特徴および臨床症状が早く発現した。VVは感染効率が最も低く、発現までの期間が長かった。
71	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	New Zealand J Agricult Res 2005; 48: 499-515	BSE、スクレイパーおよび慢性消耗病はニュージーランドには存在しないが、サーベイランスは、死後検体をイムノブロット法で検査することにより行われている。最近開発されたイムノブロット法(CDI)はTSEの株や亜型を区別でき、血液検体中での検出も可能かもしれない。増幅法(PCMA)は最小量を検出できる。
72	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Robert Koch Institut/ Voten des Arbeitskreises Blut/ Votum 33	2006年1月11日の血液専門委員会第61回会議で可決されたvCJDに関するドイツ連邦保健省血液専門委員会の通達である。まだ使用されていない血液製剤によるvCJDの感染を防止し、感染の可能性のある供血を予防し、感染が生じた場合の解明の手順を定めた。
73	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 311: 1117	慢性消耗病(CWD)のシカの骨格筋中に感染性プリオンが含まれているかどうかを、シカのプリオンを発現するトランスジェニックマウスにおいて検討した。CWDに感染したシカの骨格筋抽出物を脳内に接種したトランスジェニックマウスは360~490日後に、脳抽出物を接種した群は230~280日後に、進行性神経症状を呈し、これらのマウスの脳にはPrP ^{Sc} が検出された。正常シカの抽出物を接種した対照群では発病しなかった。
74	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイパーに感染させたハムスターの血液中のPrP ^{Sc} をPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrP ^{Sc} は末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。